

鳥栖や久留米、広川、柳川で放課後等デイサービス事業所を展開されている「カラーズ」さんの職員研修を担当させて頂いております。

今回も職員の方全員集合しての対面形式で研修を行いました。

第25回目の研修内容は、「子どもとの上手な関わり方」をテーマに講義とグループワークを行いました。

「カラーズ」さんは、サッカー療育をはじめ様々な療育アプローチを実践し、日々子どもたちの為に効果的な支援を行っていらっしゃいます。また、今年度より事業所が一つ増え(柳川校)、ますますパワーアップし支援の幅を広げていらっしゃいます。

新規職員の方も続々と増え、支援の幅が広がる一方で、全職員が共通理解を持ち、支援の質を落とさず継続する為に、改めて「子ども達への関わり方」や「発達障がい」についての基本を学ぶ必要性を強く感じていらっしゃいます。

そこで今回は基本に立ち返り「発達障がいとは？」「子ども達の困り感とは？」「常識とは？」「効果的支援とは？」をテーマに職員の方それぞれ自分自身の得意不得意を振り返りながら、子ども一人一人のペース・常識に当てはめない視点・スモールステップ・他人に頼るなどのポイントを意識して皆で学んでいきました。

子ども達を支援者や大人の常識に当てはめ「何で出来ないの？」「何度言ったら分かるの？」「無理かな？」と否定したり責めたりレッテルを貼ったりするのは簡単です。しかし、逆に「出来て当たり前と思われるような課題」を達成させる為にスモールステップで根気よく寄り添う事はとても難しいことです。

「大人の焦りや怒りは子どものやる気と比例しない。」

↓

「大人の根気は子どもやる気を伸ばす！」

以上の相反する言葉をお伝えし、「発達障がい」の基本を踏まえて、支援者として子どもに対する日々の関り方を改めて考えて頂きました。

